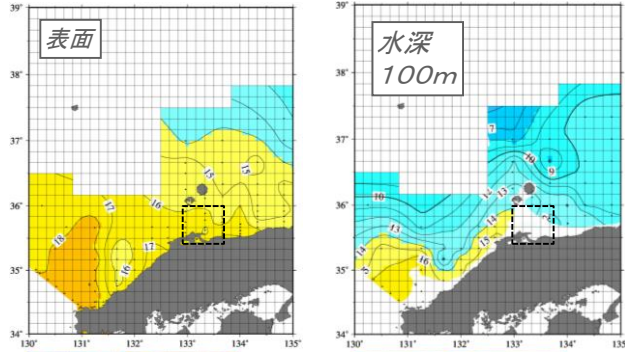
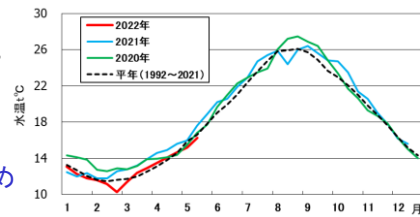




鳥取沿岸の水温

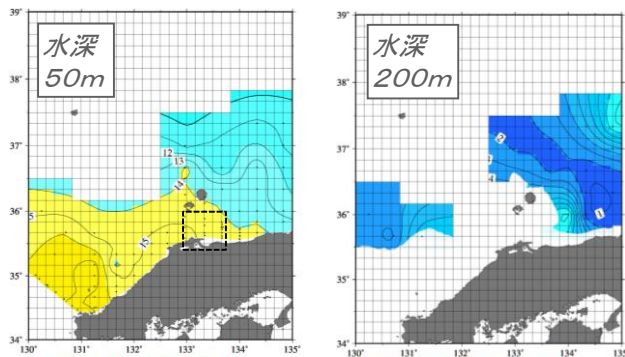
鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

5月中旬 16.3℃
平年より 0.4℃低め



隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の平均水温は16℃(15~16℃)を示しています。【前年差: +0.49℃、平年(直近30年)差: +0.43℃】

平均水温は12℃(12~13℃)を示しています。【前年差: -2℃、平年(直近30年)差: -1.4℃】



平均水温は14.6℃(14~16℃)を示しています。【前年差: -0.85℃、平年(直近30年)差: +0.095℃】

鳥取県長尾島沖北緯36°付近と、兵庫県沖北緯37°10'以北に8~9℃を示す暖水域があります。

水産試験場

「日本海スワイガニ等底魚資源調査」を実施中

2022年5月7日～6月28日にかけて日本海西部海域139地点において但州丸(358トン:兵庫県立香住高等学校所属)によるスワイガニ等底魚類の資源調査が行われています。2014年から水産試験場の試験船「第一鳥取丸(199トン)」もスワイガニの主要漁場の一つである隠岐西方海域において但州丸と同じ調査点で同様に調査を行う並行操業を実施しています。今年も5月9日～5月11日にかけて出雲沖、隠岐北西沖の計12地点で調査を実施しました。

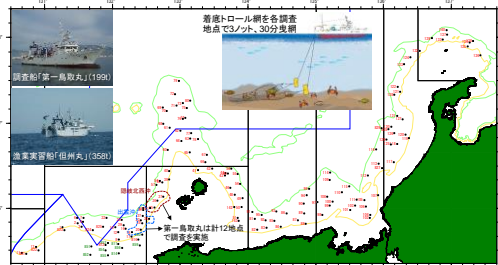


図:但州丸による調査地点及び、第一鳥取丸と並行操業を行った調査地点

雄は漁獲サイズとなる資源量は昨年並みでしたが、隠岐北西沖では規制サイズ未満の小型個体が多くなっている傾向が見られました。また、雌では昨年よりも全体的に資源尾数が多く、特に2022年漁期にアカコとなる小型のマングワガニが増加している傾向が見られました。



選別したカニは甲羅や甲羅の状態、成熟状態等を1匹ずつ計測していきます。

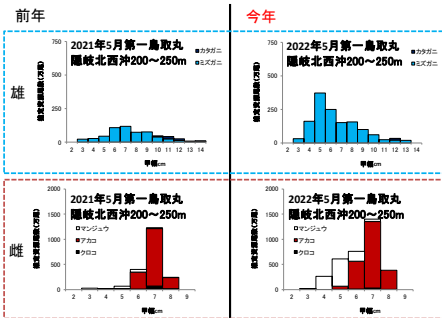


図:第一鳥取丸の隠岐北西沖調査地点でのスワイガニの推定資源尾数(昨年の結果:左、今年の結果:右)

令和4年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

潮に夢を

共和水産株式会社

代表取締役 前橋 知之

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

5月下旬の水塊配置と対馬暖流

鳥根沖冷水域	鳥根沖で観測が未実施のため不明。
隠岐諸島北方の冷水	N36° 40' 以北に10℃以下の冷水域があり、一部が局所的にN36° 20' 以北まで接岸。
山陰・若狭沖冷水域	隠岐諸島北方の冷水の一部が局所的にN36° 20' 以北まで接岸。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かうと考えられます。鳥取県沖では主流の一部が10℃等温線に沿ってN36° 以北を北方に向かい流れています。

*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています。是非ご利用ください。

水産振興課・漁業調整課

今年も岩ガキの季節が到来!

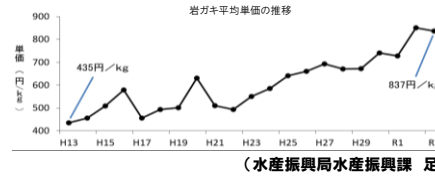
6月1日に夏の味覚「天然岩ガキ」の出荷が始まります。毎年5～7月の月一回、県内各地の漁業者に検体を採取してもらい、貝毒およびノロウイルスの検査を実施しています。5月の検査ではノロウイルス、貝毒ともに陰性でした。

●今漁期の検体採取漁協

海域	ノロウイルス	貝毒
東部	福部支所	福部支所
中部	酒津支所	酒津支所
西部	赤碓町漁協	赤碓町漁協
美保湾	境港支所	



近年、「夏輝(なつぎ)」ブランドは、漁獲量の減少と市場評価の高まりにより、平均単価は上昇傾向です。今年は行動制限緩和が進み、昨年よりも多くの観光客が訪れることが期待されます。各関係者より一層協力し、安心安全かつ美味しい鳥取県の天然岩ガキをPRしていきます!



(水産振興局水産振興課 足立 電話:0857-26-7317)



栽培漁業センター

令和4年度美保湾ヒラメ種苗放流の実施

令和4年4月25日(月)に、美保湾地域栽培漁業推進協議会によるヒラメの種苗放流(平均全長88mm、6万尾)が実施されました。種苗放流事業は、適地に適正なサイズを放流することが高い回収率につながります。美保湾はヒラメの餌が豊富であり、ヒラメ種苗を魚食性に転換する80mm以上になるまで育成して放流することで平均12.1%という高い回収率を維持しています。

放流年	放流尾数(尾)	回収尾数(尾)	回収率	(2021年12月末時点)
				追跡必要年数
2007年放流群	60,700	9,802	16.1%	完了
2008年放流群	61,100	2,120	3.5%	完了
2009年放流群	57,100	2,069	3.6%	完了
2010年放流群	68,610	10,707	15.6%	完了
2011年放流群	56,500	5,858	10.4%	完了
2012年放流群	63,000	11,612	18.4%	完了
2013年放流群	76,000	7,982	10.5%	完了
2014年放流群	30,000	4,231	14.1%	完了
2015年放流群	60,000	7,234	12.1%	完了
2016年放流群	60,000	5,839	9.6%	完了
2017年放流群	60,000	9,703	16.1%	完了
2018年放流群	60,000	8,786	14.6%	ほぼ完了
2019年放流群	60,000	8,051	13.4%	あと1年
2020年放流群	60,000	2,359	3.9%	あと2年
2021年放流群	60,000	19	0.0%	あと3年
07-18平均	59,418	7,162	12.1%	



漁船を走らせながらヒラメを分散放流します

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330